

普及情報

地域ぐるみで新規参入者の育成

龍野市では、農業の担い手不足が深刻な問題となっている。そこで農業経営士をはじめとする先進農家の前向きな考えが、関係機関を動かし、新規参入者の経営開始支援を行っている事例を紹介する。

1 新規参入者の受け入れ

龍野市の花壇苗生産農家の間では、生産規模の拡大と新規参入者の確保により、花壇苗産地の強化を図りたいとの希望があった。鉢花・花壇苗の生産技術は生産者独自の技術開発によるところが大きい。新規参入者の受け入れを単なる技術流出であると考えてしまえばデメリットとなる。

受け入れることによるメリットは、①Uターン者を受け入れることで企業的な考え方が導入され、農家に新鮮な刺激を与える。②新品種が次々と開発されるが、多くの生産者で試作し、情報交換を行うことで経営リスクを少なくでき、技術レベルが向上する。③資材の共同購入ができ、コスト削減が実現できる。等の事が考えられる。産地としての将来的な構想があれば新規参入者の受け入れは必ずメリットになると考えた。

2 農業構造改善事業の実施

生産者の要望を受けて関係機関で協議を重ねた結果、リースハウス事業の導入を図った。JA 揖龍が事業主体となり、希望する農家は施設利用料を払いながらその施設を借り受ける。表のとおりこの事業により規模拡大農家はもとより新規参入者は経営の初期投資を軽減できた。(施設利用料は補助残を元利均等返済)

3 今後の課題

ガーデニングブームの追い風により販売量は増加

しているが、ポット単価は下落の傾向にある。1ポット50円で販売できた場合、約75%が生産・販売経費となる。従って、生産した鉢をいかに完売するか。何を、いつ、いくら出荷するか。

経営主が判断すべき事は非常に多く、普及としても様々な支援が要求されている。特に新規参入者については当初の経営計画が達成できるように現状把握に努め、培養土の改善、施肥管理技術の確立、生育障害株の発生原因調査を重点的に行ってきた。今後は1ポット当たりの販売価格向上にポイントをおき、1戸1品目以上の新商品開発に支援をシフトさせていきたい。

石川 順也(竜野普及センター)

表 新規及び規模拡大農家の生産状況

氏名	生産施設面積	生産鉢数	備考
A氏	6200 m ² (2460 m ²)	100(48)	拡大
B氏	1880 m ² (1500 m ²)	40(32)	新規
C氏	1060 m ² (1060 m ²)	25(25)	新規
D氏	1800 m ² (650 m ²)	30(10)	新規
E氏	1450 m ² (1450 m ²)	30(30)	新規
F氏	3730 m ² (2430 m ²)	80(53)	拡大
G氏	3070 m ² (1410 m ²)	60(30)	拡大
合計	19190 m ² (10960 m ²)	345(228)	

() はリースハウスによる分。鉢数単位は万。